Osaka Gakuin University Repository

Title	インターンシップの現状と学生・企業の意識の違い －学生・企業双方に実施した予備調査からの考察－ The Current State of the Internship and the Difference of Consciousness between University Student and Worker. － Results of the Survey for Consciousness of People Involved in Internship －
Author(s)	佐野　薫 (Kaoru Sano)
Citation	大阪学院大学　経済論集（THE OSAKA GAKUIN REVIEW OF ECONOMICS）, 第 29 巻第 1-2 号 : 301-319
Issue Date	2016.1.31
Resource Type	Note/ 研究ノート
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

大阪学院大学経済論集
第29巻第１・２号、2016年１月

インターンシップの現状と学生・企業の意識の違い
－学生・企業双方に実施した予備調査からの考察－

佐　野　　薫

要　約

本稿は、様々な業種の就業体験を通じて「業界研究」を深めるための活動（異業種インターンシップ）に対する予備調査である。今回の調査では、(i)学生と企業のギャップ（その業界で働くことに対する意識の違いなど）がどの程度あるのか、(ii)「異業種インターンシップを通じて、業界研究を実施することができたのか」を検証している。

その結果、インターンシップに対して学生側は十分にできたと評価しているのに対して、企業側はあまり評価しないという結果となった。とくに準備面での評価に学生と企業では大きな隔たりが見られた。一方、業界研究の実施という観点ではある程度評価できた。

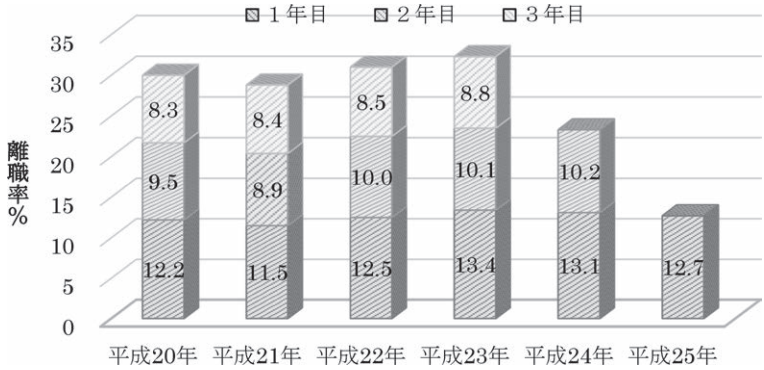
今後も企業と新規学卒者のミスマッチを防ぐためにどのような活動が効果的なのか、更なるアンケート調査や追跡調査などを行う予定である。

キーワード：インターンシップ、業界研究
JEL 分類番号：J2, J6.

1．はじめに

就職活動を開始する際には、２つの条件を確認する必要がある。１つ目が労働市場への参入条件を知ることである。つまり自分を認識して、どのような職に自分の適性があるか知る必要がある。また景気状況も参入条件には大きく影響する。２つ目に参入するための労働市場の選別である。自分の適性を認識した上で、自身の適性を生かす為に職種選びは大事な要素である。

新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移



今回のアンケート調査を実施した背景には、大学の新規卒業者の３年以内で離職率が３割を超えていることがある。これまでの先行研究では、労働市場の参入条件の要因からの分析が多い。たとえば、黒澤・玄田(2001)では、卒業時の景気状況が早期離職につながっていると検証している。一方、労働市場の選別からの研究は、小林・梅崎・佐藤・田澤(2014)がある。小林・梅崎・佐藤・田澤(2014)では大卒者の就職先と継続状況に関するアンケートデータを計量分析することで、産業・規模と早期離職の関係について検討している。ただし、労働市場の選別からの研究は調査方法が難しいこともあり、今後も研究が必要

である。

本稿は、大学の新規卒業者の労働市場の選別からの研究であり、そのためのアンケート調査をまとめたものである。なお今回のアンケート調査は今後本格的なアンケート調査をするための予備調査であり、２つの目的を持って実施している。１つ目には学生と企業のギャップ（その業界で働くことに対する意識の違いなど）を検証することである。これはミスマッチの原因として職場意識の違いが大きいのではないかと予想されたからである。２つ目は「異業種インターンシップを通じて、業界研究を実施することができたのか」を検証することである。こちらは数値結果だけでなく、学生のコメントや事後レポートから検証している。本稿では、まずインターンシップの現状について述べ、今回実施したアンケート調査について説明する。そしてその結果と考察を述べる。

２．インターンシップの現状

文部科学省・厚生労働省・経済産業省によると、インターンシップとは「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義されている。ただし研修期間や実施形態に定義がないため、さまざまな形のインターンシップが実施されている。「産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査報告書」(2013年)によると、わが国ではキャリアガイダンス型（仕事理解型）とキャリア教育型（課題協働型）が中心となっている。キャリアガイダンス型（仕事理解型）とは、１～２週間程度の職場・業務体験の後、レポートやプレゼンによる報告を実施する体験中心の活動である。キャリア教育型（課題協働型）とは、職場と教室を反復してのグループワーク形式が多く、社会人基礎力等の汎用的能力の養成に主眼がおかれる活動である。

しかしここ２年の間に上記の２つとは異なるインターンシップが主流となっている。『2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果』によるとイン

ターンシップ参加者は全体の78.9％であった。これは前年同期（73.7％）より5.2ポイント増加しているという結果である。このアンケートに参加している学生は就職活動に対して、積極的に行動を続けている学生だと思われるが、彼らが参加したプログラムで「1日以内」が6割強（65.3％）に対し、「5日間以上」が41.8％という結果は、インターンシップの捉え方が大きく変わっていることを意味している。この背景には、2015年度の就職活動時期が8月解禁ということもあり、短期間で会社説明を行うために“インターンシップ”を実施した企業側の事情もあったと考えられる。それ以上に、今回数社の企業を調査したが、企業側の見方として、インターンシップを実施する効果を疑問視していることがある。そのため今後は、企業側の負担の少ない「1日以内」のプログラムが主流になると思われる。

一方、学生の目的意識の変化もあるようだ。『インターンシップに関する調査』(2015年)によると学生のインターンシップに参加する目的が「過去2年間は「自身の成長のため」が4割を超えていたが、2015年の調査では25.2％へと急激に減少し、代わりに「業界研究のため」が52.1％と過半数に達し、増加が著しい」と報告されている。このように、この数年で学生側・企業側のインターンシップに対する考え方・実施方法が大きく変わってきていることが分かる。

2.1　業界研究のためのインターンシップ～異業種インターンシップとは～

インターンシップに対する考え方・実施方法が大きく変わってきている状況は前述したとおりである。ただし「1日以内」のプログラムを2・3回受けた程度では、業界研究を実施できない。

そこで今回菊池將人先生が主催する異業種インターンシップにおいて、アンケート調査を実施した。このインターンシップは、企業と新規学卒者のミスマッチが入社3年以内の離職率の主な原因だと考え、それを防ぐために、様々

な業種の就業体験等を経験することで、「業界研究」を深めるための活動である。

多くのインターンシップの中で、異業種インターンシップを取り上げた理由は次のとおりである。このインターンシップは１社訪問型のインターンシップ（１週間以上）と異なり、基本的には１日１社、合計で10社以上の企業を訪問することになるため、色々な業種を実際に体験できる。また10名程度の学生が同じ体験をし、なおかつ学生と企業の双方にアンケートを実施するが可能なため、インターンシップの効果をより正確に検証できる。さらに企業と新規学卒者のミスマッチが起こる原因として、業界研究の不足と同時に、学生側の「その業界で働くこと」に対する意識にも問題があるように考えている。今回の調査ではできなかったことだが、企業側からのコメントもいただいて、学生側の「その業界で働くこと」に対する意識を改善する方法を検証できる。このような理由から、この活動に関してアンケート調査を実施することにした。

3．アンケート調査の概要と結果

3.1　調査の目的

今回は次の２点を検証する目的で実施している。

(i)　学生と企業のギャップ（その業界で働くことに対する意識の違いなど）を検証する。

(ii)　「異業種インターンシップを通じて、業界研究を実施することができたのか」を検証する。

なおこれまでインターンシップの効果に関するアンケートは活動終了時に１回実施するタイプである。それに対して、今回の検証のためには複数回実施する必要があり、独自のアンケートを作成した。今回の予備調査に活用した用紙は本稿の最後に掲載している。

3.2　調査の回答者

アンケートの回答者は次のとおりである。なおインターンシップの実施時間・実施日程等を鑑みて、対象企業はこちらで選定した。

(i)　異業種インターンシップ参加者（15名）

(ii)　異業種インターンシップの参加企業（７社）

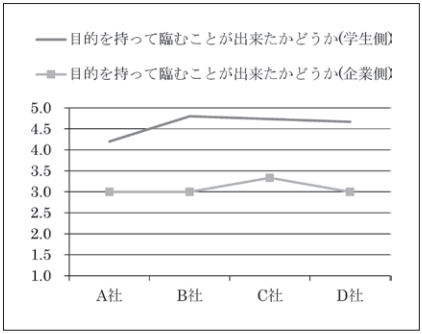
3.3　調査の結果

今回は７社のインターンシップ先でアンケートを実施したが、実施日程の間隔等からＡ社、Ｂ社、Ｃ社、Ｄ社の４社の結果をまとめている。なおほかの３社についても概ね同様な結果が得られている。

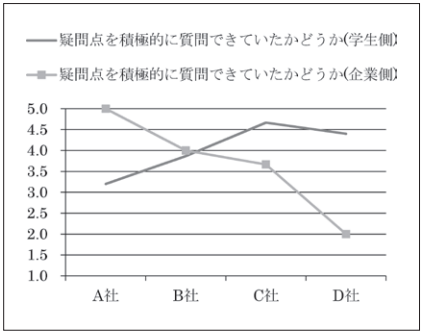
今回のアンケート調査では、(i)学生と企業のギャップ（その業界で働くことに対する意識の違いなど）を検証すること、(ii)「異業種インターンシップを通じて、業界研究を実施することができたのか」を検証することである。この２つのことを検証するために、①「(今日のインターンシップに対して）目的を持って臨むことが出来たかどうか」、②「(今日のインターンシップを体験して）疑問点を積極的に質問できていたかどうか」、③「(今日のインターンシップを体験して）この業界に関心が持てたかどうか」、④「(今日のインターンシップに対して）しっかりした準備ができたかどうか」の４つの質問に注目した。

まずは①「目的を持って臨むことが出来たかどうか」、②「疑問点を積極的に質問できていたかどうか」からアンケート結果を検証する。この２つの質問は、学生たちが明確な目的を持ってインターンシップに参加しているかを検証するものである。図①・図②にこの結果をグラフにしているが、これを見ると学生たちは何らの目的を持って参加しているようであるが、それは企業からすると物足りないと感じる姿勢であるようだ。またコメント部分に着目すると、日程を消化するにつれて、義務的に質問を行っているのでないかと思わる節が

図①



図②

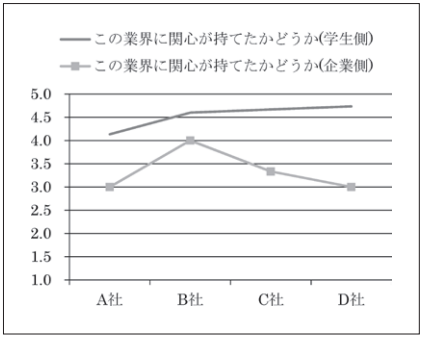


あり、企業側からすると何のために参加しているか分からないと感じる部分があると思われる。全体を通じて、インターンシップに臨むための準備不足が目立つ結果となった。

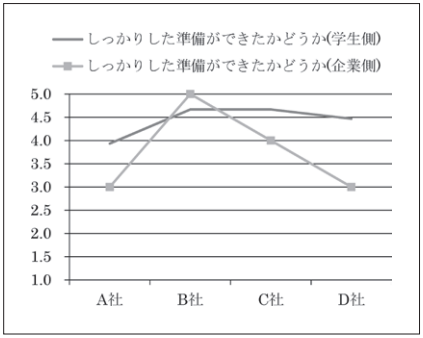
また③「(今日のインターンシップを体験して）この業界に関心が持てたかどうか」、④「(今日のインターンシップに対して）しっかりした準備ができたかどうか」をグラフ化したものが図③・図④である。どちらのグラフも学生と企業側が大きくかい離している。更なる検証が必要であるがアンケートのコメントを見る限り、「関心を持って臨んでいるか」と「しっかりと準備が出来ているか」という質問はリンクしているように思える。なおB社の結果が他の企業と異なるように見えるかもしれないが、この日は事前に課題が与えられており、どの学生も課題に取り組んでいたことから、高い評価につながっている。今回の参加者の場合、何らかの課題がないとどのように準備等をすればよいかわからないのかもしれない。さらに関心や興味がないと余計に準備がおろそかになっているのかもしれない。

最後に、その他の部分に関しては、企業によっては学生に対する厳しい見方もあったが、概ね学生と企業に大きな差を感じることはなかった。

図③



図④



4．考　察

今回のアンケート調査では、(i)学生と企業のギャップ（その業界で働くことに対する意識の違いなど）を検証すること、(ii)「異業種インターンシップを通じて、業界研究を実施することができたのか」を検証することである。

学生がきちんとできている部分も見られたが、全体的にみると異業種インターンシップを通じて学生と企業のギャップが広がってしまった箇所も見られた。全体を通じて、インターンシップに臨むための準備不足が目立つ結果となった。とくに後半になると“作業”のように質問をしている部分もあり、雑な行動も見られた。先行研究の中に、就職活動の長期化がミスマッチの原因であるとするものもあり、この部分をもっと調査することが、大学の新規卒業者の3年以内で離職率が3割を超えている理由を説明できるのかもしれない。

その一方で、業界研究を実施するという点では、ある程度効果があると言える。学生側のアンケートの数値を見る限り、学生自身の評価は上昇しており、事後レポートを見る限り、この活動に関して満足度が高いようである。また「あまり興味がなかった分野だが、インターンシップを受けて番組制作に興味が湧いた」など、自分の知らない・興味がなかった業界にも目を向けることが

出来ていた。この活動の良い点は学生の知らない・興味がなかった業界にも目を向けることができる点であると思われる。ただし効果的にインターンシップを受けさせるために更に興味を抱かせておく必要も感じた。

指導面にも課題が見られた。学生のコメントを見る限り、質問するだけが目標となっている。またその質問に関する応対についても納得していないような部分が見られる。納得するまで聞く等の指導は必要かもしれない。

今回のアンケートのコメント欄を見ていて気になることが１つあった。それは「次回、ここを改善したい」というようなコメントがほとんど見当たらないことである。今回の参加者には自己評価が高い学生が多かったのかもしれない。ここの部分に関しては今後検証する必要があるが、鍋田(2015)によると近年の学生には次のような傾向があるようだ[1)]。鍋田(2015)の一部を抜粋する。

「家庭でも社会でも、至れり尽くせりで育てられる。大学まではずっと「お客さん」だ。そのため、社会に出ても、自己愛を引きずることが多い。…中略…そして、何の根拠もない万能感が残りやすい。大人が準備したものをそれなりにクリアして褒めてもらってきたことで、自分を有能な人間だと思い、大切にされ評価されるに値する人間だと思い込んでしまう。」

鍋田氏の書かれている部分は今回のインターンシップの参加者に当てはまる部分が多い。特に企業側があまり評価していない部分も学生はしっかりできたと評価している。そのため「学生が自分を見つめ直す」指導をするべきだが、鍋田(2015)には次のようなことにも触れられている。

「葛藤が感じられないのでなく、何を悩んでいるのかをイメージできないというべき状況にある。そして、こちらからの質問にせいぜい、反射的に答えるのみのコミュニケーションに終始する」

1）著者の鍋田恭孝氏は立教大学現代心理学部教授であり、精神科医でもある。鍋田氏は神経症、うつ病、ひきこもり、心身症などの治療研究を行っている。特に若者のうつ病についていくつかの書籍を書かれている。そのため多少極端に感じる部分もあるが、今回のインターンシップの学生の状態を適切に説明していると思われる。

上記の状況は現代のうつ病にかかっている若者の状況を説明した文章なので、極端な部分もあるが、「どのように行動したら良いかイメージができない」といった状況は随所で見られた。ここの部分の指導が必要となると、インターンシップの中での指導だけでは達成するのはほぼ不可能である。大学教育全体で取り組む必要があると思われる。

5．終わりに

本稿は、大学の新規卒業者の労働市場の選別からの研究であり、そのためのアンケート調査をまとめたものである。そのために異業種インターンシップでのアンケート調査を通じて、(i)学生と企業のギャップ（その業界で働くことに対する意識の違いなど）を検証すること、(ii)「異業種インターンシップを通じて、業界研究を実施することができたのか」を検証した。

学生と企業のギャップ（その業界で働くことに対する意識の違いなど）に関する検証だが、インターンシップに臨むための準備不足が目立ち、学生と企業のギャップが広がってしまった箇所も見られた。特に後半になると“作業”のように質問をしている部分もあり、雑な行動も見られた。2週間程度の活動内容でもこのような結果が見えることから、もっと調査することで大学の新規卒業者の3年以内で離職率が3割を超えている理由を説明できるのかもしれない。今年でもアンケート調査を実施予定なので、もう少し詳細なアンケート項目を作成している。

「異業種インターンシップを通じて、業界研究を実施することができたのか」の検証だが、この活動は、学生の知らない・興味がなかった業界にも目を向けることができるという点から、ある程度の効果があると思われる。ただしより効果的にインターンシップを受けさせるために更に興味を抱かせておく必要も感じた。

また指導面での課題もあった。特に事前準備に関しては十分な指導を必要としていることが判明した。また学生のコメントを見ると内容的に消化できていない部分もあったようである。前日の内容等を反省する時間を作るなど自己分析する時間を設ける必要があるように思われる。

今後の課題・調査をすべき点は２点ある。１点目は今回の予備調査を通じて、事前準備の部分のアンケート項目を充実化させることである。現在、今年度の活動に向けてアンケートを修正中である。２点目は追跡調査の実施である。現在はインターンシップの活動そのものの整備に力を注いでいるが、この研究の最終目的は「新規学卒者の３年以内での離職率が３割を超える原因を探り、離職率を下げること」としている。早期に実施できるように、現在計画中である。

謝　辞

この調査を遂行するために異業種インターンシップの主催者の菊池將人先生には大変ご協力を頂きました。また異業種インターンシップに関わった企業の方々や学生達にもアンケート調査に協力して頂きました。皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

参考文献

大久保幸夫、2006年、『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』(日経文庫)、日本経済新聞社

株式会社ディスコ、2016年、キャリアリサーチ『2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果』

株式会社ディスコ、2015年、キャリアリサーチ『インターンシップに関する調査』

黒澤昌子・玄田有史、2001年、「学校から職場へ－「七・五・三」転職の背景」、『日本労働研究雑誌』490、p.4-p.18

経済産業省・特定非営利活動法人エティック、2013年、「産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査報告書」

小林徹・梅崎修・佐藤一磨・田澤実、2014年、「大卒者の早期離職とその後の転職先」、『大原社会問題研究所雑誌』671, 26-44.

鍋田恭孝、2015年、『子供のまま中年化する若者たち　根拠なき万能感とあきらめの心理』、幻冬舎新書

表１　インターンシップ前半のアンケート調査結果

		A社の インターンシップ		B社の インターンシップ	
		学生の評価	企業からの評価	学生の評価	企業からの評価
事前準備	**目的を持って臨むことが出来たかどうか**	**4.2**	**3**	**4.8**	**3**
	しっかりした準備ができたかどうか	**3.9**	**3**	**4.7**	**5**
参加状況	遅刻等なく、参加できたかどうか	4.7	4	4.9	5
	身だしなみに注意できたかどうか	4.7	5	4.9	5
	熱心に実習することができたかどうか	4.3	4	4.9	5
本日の内容	本日のインターンシップの説明に関して	4.7	4	4.9	4
	本日のインターンシップで配布された資料に関しての反応	4.9	3	4.9	4
協調性	会社の規則を守ることができていたかどうか	4.8	5	4.9	5
	素直に指導を受けることができていたかどうか	4.7	5	4.9	4
	社員との交流ができていたかどうか	3.3	5	4.1	4
業界研究	**疑問点を積極的に質問できていたかどうか**	**3.2**	**5**	**3.9**	**4**
	この業界に関心が持てたかどうか	**4.1**	**3**	**4.6**	**4**
総　合	本日の実習は役立った	4.6	－	4.9	－
	就職活動でこの業界を受けたい（働きたい）という意欲が出たか	3.7	－	4.2	－

表2　インターンシップ後半のアンケート調査結果

		C社のインターンシップ		D社のインターンシップ	
		学生の評価	企業からの評価	学生の評価	企業からの評価
事前準備	**目的を持って臨むことが出来たかどうか**	**4.7**	**3.3**	**4.7**	**3**
	しっかりした準備ができたかどうか	**4.7**	**4.0**	**4.5**	**3**
参加状況	遅刻等なく、参加できたかどうか	4.9	5.0	4.9	5
	身だしなみに注意できたかどうか	4.7	4.3	4.9	5
	熱心に実習することができたかどうか	4.8	4.7	4.9	4
本日の内容	本日のインターンシップの説明に関して	4.7	4.3	4.9	3
	本日のインターンシップで配布された資料に関しての反応	4.9	4.0	4.8	3
協調性	会社の規則を守ることができていたかどうか	4.9	5.0	4.9	4
	素直に指導を受けることができていたかどうか	4.9	5.0	4.9	3
	社員との交流ができていたかどうか	4.9	4.7	4.9	3
業界研究	**疑問点を積極的に質問できていたかどうか**	**4.7**	**3.7**	**4.4**	**2**
	この業界に関心が持てたかどうか	**4.7**	**3.3**	**4.7**	**3**
総　合	本日の実習は役立った	4.9	−	4.9	−
	就職活動でこの業界を受けたい（働きたい）という意欲が出たか	4.5	−	4.6	−

【平成27年度　異業種インターンシップ　アンケートのお願い】

企業様には、異業種インターンシップ実施に当たり、ご協力戴き感謝申し上げます。今後の取り組みについて、忌憚のないご意見などをアンケート戴きます様宜しくお願い申し上げます。※選択肢の数字に〇をつけ、所見を記載してください。

評価分野	評価内容	評　価 良い　　悪い
学生の意欲について	学生たちは目的を持って臨むことができていた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	学生たちはしっかりした準備ができていた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	所見	
参加状況	学生たちは遅刻等なく、参加できていた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	学生たちは身だしなみに注意できていた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	学生たちは熱心に実習することができていた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	所見	
業界研究	学生は疑問点を積極的に質問することができていた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	学生たちはこの業界に関心を持って参加していた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	所見	

評価分野	評価内容	評　価 良い　　悪い
協調性	学生たちは貴社のルールに従って行動していた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	学生たちは素直に指導を受けることができた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	学生たちは貴社の社員との交流ができていた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	所見	
本日のインターンシップに関して	本日のインターンシップの関して、学生の反応は良かったと思われる。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	本日のインターンシップで配布された資料に関して、学生の反応は良かったと思われる。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	所見	

ご協力ありがとうございました。

平成27年　　月　　日

企業名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【平成27年度　異業種インターンシップ　アンケート】

就労体験の学生諸君、異業種インターンシップの実務などについて忌憚のないご意見をお聞かせください。※選択肢の数字に〇をつけ、意見を記載してください。

インターンシップ先	
日時	**月　　日**

評価分野	**評価内容**	**自己評価** **良い　　悪い**
事前準備	目的を持って臨むことができた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	しっかりした準備ができた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	コメント	
参加状況	遅刻等なく、参加できた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	身だしなみに注意できた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	熱心に実習することができた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	コメント	
本日の内容	本日のインターンシップの説明の仕方は解り易かった。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	本日のインターンシップで配布された資料は適切であった。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	コメント	

評価分野	評価内容	自己評価 良い　　悪い
協調性	会社の規則を守ることができた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	素直に指導を受けることができた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	社員との交流ができた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	コメント	
業界研究	疑問点を積極的に質問できた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	この業界に関心が持てた。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	コメント	
総　合	本日の実習は役立った。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	就職活動でこの業界を受けたい（働きたい）という意欲が出たか。	5 － 4 － 3 － 2 － 1
	コメント	

ご協力ありがとうございました。

大学名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

The Current State of the Internship and the Difference of Consciousness between University Student and Worker －Results of the Survey for Consciousness of People Involved in Internship－

Kaoru Sano

ABSTRACT

I search for evidence of high turnover within three years of the new graduates of the University and I consider the cause that is a “mismatch” between the new graduates of the University and business worker. I investigated some internship from two points of view, (i) how much is the difference of consciousness between University student and Worker, (ii) Whether the internship are suitable for industry research.

Result of investigation, the difference of consciousness between University student and Worker is large. In the future there is a need to examine how to reduce the difference of consciousness. The Internships is suitable for industry study. That is also a point to be improved.

Keywords：internship; industry research.
JEL Classification Numbers：J2; J6.